

インフルエンザについて

例年12月～3月頃に猛威をふるうインフルエンザ、この時期に流行するタイプとしてはA型、B型があります。

症状としては高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などがインフルエンザを疑わせる特徴的な症状といえるでしょう。

簡易キットで速やかに診断可能ですが、発熱して間もない場合は偽陰性（感染しているのに検査では陰性）となりやすい為、発熱して12時間程度経過してからの検査が理想といえるでしょう。

治療は内服、吸入、点滴などがあります。症状発現後48時間以内の開始が原則です。

よって、状況にもよりますが診断、治療の点からは発熱後12～48時間以内の受診が望ましいでしょう。

治療薬の予防投与として、内服や吸入が可能ですが、いずれも自費となります。

出席停止期間は発症後5日経過、かつ解熱後2日経過（幼児は3日）となりました。

予防接種の効果は、接種後およそ2週間～半年程度ですので12月初旬までには接種終了するスケジュールがよいと思われます。

十分な食事や睡眠、手洗い・うがいなどの万病予防や部屋の加湿、マスク着用での外出など季節の工夫もして元気に冬を乗り切っていただきたいと思います。

大野キッズ・
ファミリークリニック
院長 田辺誉広

